

厚生労働省が公表した 2024 年平均寿命報告によると、日本人は男性が 81.11 歳で世界長寿国の 6 番目で、女性に至っては 87.12 歳でこの 40 年間世界一の座を守り続けている。どうして日本人はこれほど健康で長寿を維持できるのだろうか。何といても医療面で誰もが十分な治療を公平に受けられることが大きい。加えて、日本人の清潔好きな性格も影響していると言える。

しかし、長生きは幸せだと手放して喜んでばかりももられない。一般的に経済的に恵まれ、高い生活水準、教育・医療の機会均等、充実した社会インフラ、文化的な豊かさに囲まれて健康で楽しく生活できるなら幸せと言えるだろう。日本はその点では、かなり国民の気持ちは充足されている筈である。ところが、日本人の最近の幸せ感は、国連が公表する 2024 年度「世界幸福度報告書」によると、意外にも世界 143 カ国中 51 位で、決して高くはない。むしろ期待外れである。

一方、先進国の中でも例外的に短命の国がある。言うまでもなくロシアである。特に男性の平均寿命は短く、2004 年の統計では 59 歳だったが、国も慌てて対策に乗り出し、今では 73 歳にまで伸ばすことができた。彼らの短い寿命の原因は、彼らが飛びぬけて酒好きで暴飲暴食に陥りがちだからと考えられている。実際極寒期に首都の繁華街の片隅で酔いつぶれている男たちを見かけることがよくある。彼らは

ウォッカを手放せないのである。大陸横断のシベリア鉄道に乗って車窓から外を眺めていても、雪の降る夜間に田舎駅で降りた男が足元をふらつかせながら歩いている危なっかしい光景を見ることがある。多分飲み過ぎのせいだろう。酒好きで知られた大統領が、酔っぱらって橋の上から川へ落ちたくらいロシア人の酒好きは有名である。彼らは酒さえ手に入れば、幸せ感一杯なのである。そして、今ではまずまずの寿命を維持している。

それに引き比べて、世界で最も短命なのは悲しいかな、ほとんどがアフリカの国々である。それは乳幼児の死亡率が高く、衛生面に問題があるうえに、いずこの国も国内の治安が悪く、戦争、クーデター、内戦など治安上の問題による大量殺人などが大きく影響している。とりわけニジェールでは平均年齢が何と 14.8 歳と言われている。国内ではテロ組織による攻撃や、武力衝突、テロ攻撃、誘拐事件などがしばしば発生している。とても幸せとは言えない。

今世界中から注目されているパレスチナ・ガザ地区では、2023 年 10 月にイスラエル軍によって空爆されるまでは、平均寿命が 75.5 歳だった。それが、1 年も経たない昨年 9 月には、平均寿命が 40.5 歳に急激に下落した。明らかに生まれたばかりの乳幼児や子どもが、非人道的に飢餓や空爆により大量に殺戮された証左であると言える。

お酒を嗜む極楽気分はともかく、楽しく健康で平穏な内に家族揃って長生きするのが、人間として生まれて一番幸せなことではないだろうか。 エッセイスト 近藤 節夫